

# 藤原道長

～望月の歌から一千年～ Vol.2

「この世をばわが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば」  
は、寛仁2年(1018年)10月16日夜 道長邸(府立文化芸術会館の西300m)で  
詠まれました。これを藤原実資(さねすけ)が自身の日記「小右記」に記  
しています。

それから間もなく1000年。

3つの講演と千年を振り返る「道長の月」をお楽しみください。



講演

## I 「権力者道長」

圧倒的な権力を把握した道長の望月の歌から一千年。摂関政治とは何か、そして権力の背景に何があったか。「御堂関白記」「小右記」などを巡り探る。

古瀬 奈津子(お茶の水女子大学教授)

埼玉県生まれ。1983年、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科単位取得退学。現在、お茶の水女子大学基幹研究院教授、博士(文学)。日本古代史専攻。著書に「日本古代王権と儀式」「遣唐使の見た中国」(以上吉川弘文館)「摂関政治」(岩波新書)「広開土王碑拓本の新研究」(編著、同成社)などがある。



講演

## II 「枕草子のたくらみ」

なぜ道長を恐れさせ、紫式部を苛立たせたのか? そもそもなぜ「春はあけぼの」なのか? 清少納言が書かざるを得なかったその理由を千年を経て解き明かす。

山本 淳子(京都学園大学教授)

金沢市生まれ。京都大学文学部卒業、石川県立金沢辰巳丘高校教諭等を経て、99年京都大学大学院人間・環境学研究所修士。博士(人間・環境学)。現在、京都学園大学人間文化学部教授。「源氏物語の時代」(朝日新聞社)で第29回サントリー学芸賞を受賞。そのほかの著書に「紫式部日記と王朝貴族社会」(和泉書院)がある。



講演

## III 「月を愛でる」

平安時代、部人はどのように月を鑑賞したか。京都盆地を地形学的にとらえつつ、古来日本人はどのように月を愛でてきたのか? 目からウロコの斬新な視点から解明する。

大森 正夫(嵯峨美術大学大学院教授)

広島県生まれ。1988年、京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。現在、嵯峨美術大学大学院教授。環境芸術学会副会長。「京都の伝統的芸術環境に関する一連の研究」で環境芸術学会賞、琳派展での羽織で意匠学会作品賞を受賞。著書に、京都の空間遺産、京都・しつらいの空間美、仕組まれた意匠などがある。



※写真はイメージです。

# 11月3日 [祝・金] 14時開演

30分前開場

## 京都府立文化芸術会館ホール

(京都市上京区河原町通広小路下ル / ☎075-222-1046)

一般 [前売] 1,500円(友 1,200円) [当日] 1,700円  
学生 1,200円均一 (全自由席)

チケット取扱い

京都府立文化芸術会館 ☎075-222-1046

ローソンチケット ☎0570-084-005 [Lコード: 54621]

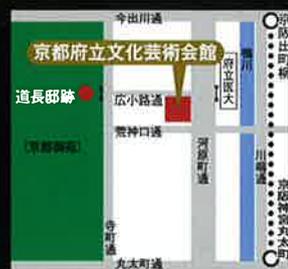
府民ホールアルティ ☎075-441-1414

高島屋京都店7階チケットショップ ☎075-221-8811 (代)

チケット発売日 2017年8月26日(土) 午前10時

お問い合わせ 京都府立文化芸術会館 ☎075-222-1046

主催 指定管理者 創 [(公財) 京都文化財団・(株) コンクレ共同事業体]



【JR京都駅から】  
市バス4系統・17系統・205系統  
【四条河原町から】  
市バス3系統・4系統・17系統・205系統  
【三条京阪から】市バス37系統・59系統  
※「府立医大病院前」バス停下車スグ前  
京阪電車 「出町柳」駅もしくは「神宮丸太町」駅  
から徒歩約12分  
※駐車スペース(有料150円/30分)に限りがございますので、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

会館喫茶クリシンにて「道長カレー」好評販売中。

共催: 古典の日推進委員会



終了後(17時頃)、道長邸跡付近にて「月の出」を鑑賞。(月齢14.3)  
※職員が案内いたします(雨天中止)